

ヒロシマ ユネスコ

ユネスコ会員国領

心の中に平和の守りを固めよう
すべての人間の尊厳を重んじよう
教育・科学・文化の発展に努めよう
民族間の疑惑と不信を除こう
世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

広島と北京のユネスコ協会を結ぶ友好姉妹協定に基いて今年十月、二回目の代表団が中国を訪問、中国各地で友好、親善を深めるとともに、国連が一九九〇年を「国際識字年」と定めたスローガンにふさわしい成果を挙げて先ごろ帰国しました。

広島ユネスコ協会からの参加者は、日本訪中団の副団長として深崎敏之・広島ユ協副会長、太鼓矢晋・同常任理事、末野忍同常任理事の三名で、これを含む訪中団の一行六名は、十月八日、大阪を出発、二十八日までの十一日間、上海、西安、内モンゴル、北京の教育機関を、識字教育を視点に据えて視察し、各地で熱烈な歓迎を受けました。

また、広島ユネスコ協会と姉妹団をしている北京市ユネスコクラブ(陶西平会長)に対し、広島代表団は、広ユ協制作のスライド構成「山鳥、海を渡る、広島県帝釈小学校」を文化資盤録小学友好の歩み」を文化資

料交換の一環として贈りました(写真参照)。

今回の訪中は、日中民間ユネスコ交流計画に基いて一九八八年に広島・岐阜ユネスコ協会と北京市ユネスコクラブとの間で締結された姉妹協定により隔年、相互訪問の一環として行われたものです。

識字教育を現地に学ぶ で友好促進

第三回
中

国際識字年 中国訪問記

副会長 深崎敏之

む訪中団の一行六名は、十月八日、大阪を出発、二十八日までの十一日間、上海、西安、内モンゴル、北京の教育機関を、

はじめてとする国際機関等からの協力と援助で教育が普及し、農業も科学的方法がとり入れられるようになり、年間収入も徐々に上昇している。一九九〇年十月二十日の中国共産党中央機関紙、人民日報によれば、中国国家教育委員会は、約二億三千

万人の非識字者がいるので識字

教育を推進するため、教育センターを設置する予定であると述べている。困ったことは、非識字者の90パーセントが僻地に居住し、70パーセントが女性といふことです。

その解決方法として、教師の研修、教師の活動範囲を拡大するための交通手段の改善、非識字者へ、識字の重要さをいかに伝達するか。識字教育のための広範囲にわたる施設の建設等である。

われわれに相談があったのは、とにかく財政的援助がほしい、単車一台でもよいから送つて貰いたいということであった。

上海、北京といった大都市ではエリート養成教育が、大きな目標で、重点小学、重点中学といったコースに進むことに重点が置かれているようである。教科課程も外國語、数学、理科に重点が置かれ、若い熱心な教師が指導にあたっていた。

室で教師が教壇にある椅子に座つて監督して自習をさせていた。生徒の一人に「最も好きな教科は!」と聞くと「中国語です」と答えて「もつともよく理解が出来ます」とつけ加えていた。学校教育の理想としては、忍耐強く美しい花を咲かせる梅、優雅な美を誇るシャクヤク、勇敢に飛び立つ鷹のよきな人物を育てることにある。教師の一人は話し、梅・シャクヤク・鷹、それぞれの大きな絵が学校の会議室にかかっていた。

内モンゴルの首都ホフホトより西四百キロ離れた伊克昭盟(イケジョナイ)の識字教育の行われていた教室には一方の壁にマルクス、レーニン、他の一方の壁にはレオナルド・ダ・ヴィンチの絵が描かれていた。



陶氏(左から2人目)にスライド贈呈の深崎副会長(右端)

インチ、シェイクスピアの肖像があつて、各々説明がかなり大きな文字で軸になつて掲げてあつた。理想の人間像なのである。

ここで特に感じたことは、老若を問わず、女性の、客をもてなすすばらしい歌謡であつた。識字教育と口承による文化の伝達はどういう関係にあるのだろうかと、今も考えている。日本の26倍の面積を持ち、56の民族から成る中国の人口構成は、教育の面でも深刻な問題をかかえているようである。



（中国教育国際文化交流協会常務副会長・李滔氏招宴。前列左から深崎副団長、李滔氏、河合田長、陶西平氏、後列左から末野さん、二人おいて太鼓矢さん。北京・孔膳堂で）

学校訪問 三校参観

常任理事 太鼓矢晋

上海市・上海中学校

十月十九日午後七時すぎ訪問。

夜間中学かと思ひきや、国語・数学・英語の統一試験で選抜された中・高一貫教育のエリート校。その自習学習の参観であった。

夕食後、中学生は八時まで、高校生は九時まで、各教室で自由な勉強。よくしつけられた自学自習であった。生徒数二千名、教師百五十名の大規模校で、創立百二十年余の歴史をもつ。

全員が寮生活。費込みで月額七〇元程度。普通、夫婦とも稼ぎで一五〇～二〇〇元の月収だといふから、その二分の一から三分の一の学費になる。それでも、この学校への入学は両親の栄誉だという。

（北京市・宣武区）
師範学校附属第一小学校
(十月二十三日午前十一時～午後二時) 生徒数十二百名、教師七十六名、全日制の重点小学校。

三年生から英語を学び、五年生でコンピュータ学習を探

り入れているのに驚く。勤勉・正直・元気向上的校訓が掲げられている。教育実習校であり、教科外でも多彩な学習活動が展開されており、広く国際交流面でもすばらしい実績をあげていること。施設、設備も非常に整備された中国でも有数のパ

イロット・スクール。校長の馬羨秋先生は、昨年、訪日・来広された。

内蒙自治区・イキホロ蒙校

(十月二十五日午前九時から)

羨秋先生は、昨年、訪日・来広された。

識字者に読み書き計算が出来るようになり、四十歳以上の人々の95%の識字率達成が目標だとのことであつた。

識字教室一室の建設費（宿舎付）最低「〇万円（二八〇万円）、移動教室指導のための教師用バ

イク、中国製一台一万元（二八〇万円）、テレビ・ビデオデッキ

一台三〇〇〇元（八万四千円）。

日本ユネスコ協会連盟が進めて

いる「世界寺子屋運動」の具体的支援策は、このほかにもいろいろと考えられよう。

内蒙古 幻想記

常任理事 末野 忍

北京空港から内蒙自治区の

首都呼和浩特（ホホト）まで、

中国民航機で一時間半の夜間飛

行。時雨に濡れながら空港に降

り立つ。ちなみに、呼和浩特市

は、わが国が侵略当時、その名

を厚和市と呼んだ歴史の痛みを

お世話になった北京教育局外事

處の丁紅宇副處長と日本語通訳

の范雷さんを含めて八名である。



翌日、同飯店の会議室で、楊曼教育副序長から、自治区の識字活動の現況について説明を受けたあと、現地見学のため二台の車に分乗して伊金霍洛（イキホロ）旗に向かう。蒙古語が堪能な張世徳さんが、同行して

（内蒙自治区・伊金霍洛蒙校）

くだつた。全自治区の人口は約二千万人で、辺境の遊牧民は四人に一人が読み書きできないということだ。

工業都市で有名な包頭(パオトウ)市までは、舗装された並木道をひた走る。良質の石炭を満載した幾台ものトラックとすれちがう。包頭市で、黄河にかかる長い鉄橋を渡つて南下。忽ちそこは半砂漠と浸食丘陵が地肌をさらす、壯大なオルドスの大荒原であった。途中、東勝(トンチョン)というところを経て、伊金霍洛旗まで、全程およそ三六〇キロ。出迎えてくださった伊克昭(イクジョ)盟教育處の王永誠副處長らの気さくなもてなしに疲れも忘れる。駄走は蒙古料理のフルコース。小羊の丸焼が出る頃には、モンゴル娘の民謡合唱の美声に酔い痴れる。戸外は星空のきれいな夜であった。

翌日、めざす伊金霍洛蒙校の識字学級の見学をすませてから、卒業生のとある家庭を訪問させていた。それは、遊牧生活をやめて定居放牧を嘗み、沙漠化と闘う草原防衛戦士のヘ文明戸の姿であった。そのあと、成吉思汗陵拝観という思わず附録があった。厳しい大自然ならではの歴史ロマンに想いを馳せ



北京アジア大会訪中記

理事 藤森 嶽

北京アジア競技大会へ、広島ユネスコ協会は加藤朗一副会長を団長として訪中団を結成し、広島県市体協主催アジア競技大会視察団に加わって訪中した。

この度の訪中団は一九八八年に日中ユネスコ間で締結された友好姉妹関係の協定上のもので、宣武区師範附属第一小学校と西城区少年宮を参観した。訪問先の長の方々は訪日団として昨年、来広されており、互いに再見を機に熱烈歓迎をうけた。

また、北京市ユネスコクラブ陶西平主席の招待晩餐会では、より親交を深めながら両協会の関わりの確かさを誓い合った。

〈主席のスピーチ〉

陶西平主席のスピーチをうけての通訳「……我々の居る教育局は、その昔日本軍憲兵隊の建物であります」

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。いま思えば、まるで沙漠の蜃気楼のように、幻想の中に身をおいた三日間であった。

もう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。いま思えば、まるで沙漠の蜃気楼のように、幻想の中に身をおいた三日間であった。

もう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

饭店まで見送りにみえた。近づいてこられたとき、富永直樹オジナルのループタイに目がとまり、何かおしゃつたので、メモ用箋を差し出すと、「歓迎はもう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。いま思えば、まるで沙漠の蜃気楼のように、幻想の中に身をおいた三日間であった。

もう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。

饭店まで見送りにみえた。近づいてこられたとき、富永直樹オジナルのループタイに目がとまり、何かおしゃつたので、メモ用箋を差し出すと、「歓迎はもう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。いま思えば、まるで沙漠の蜃気楼のように、幻想の中に身をおいた三日間であった。

もう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。いま思えば、まるで沙漠の蜃気楼のように、幻想の中に身をおいた三日間であった。

もう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。

この言葉に一瞬はつとしが文字が頭をよぎった。

〈少年宮で日本の曲〉

少年宮では、芸能関係の教室が数々設けられ、その道のエキ

スパートの先生が放課後通つてくる子どもたちを指導し、力を伸ばしている。

主催はやさしい眼差しに笑みを浮べて淡々としておられ、波立った気持は落ち着いた。

そして、改めて平和ということを考えさせられた。

〈真心・善意の大会〉

北京アジア競技大会の開会イベントは音楽、色彩のハーモニイと立体的構成、ドラマ的演出で唯々すばらしいの一言に尽きるものであった。また、各競技も見事な運営で成果をあげた。

この大成功は単に大会役員の力のみでなく、要所要所での交際整理の奉仕員、ゴミ一つない

町に清掃奉仕の市民、タクシ

ー運転手の心くばり等々と官民

一体の真心と善意の力の結果によるものである。

〈師範附小の給食〉

この学校は北京市のエリート

校である。われわれ全員感心したことは子どもたちのすばらしい

い学習態度、特に姿勢のよさで

ある。また眼鏡をかけた子どもはほとんど見かけず、居ても学

級に一人位だった。

給食のよまぐを見学させても

らつたが、パン、ソーセージと豚汁の一汁一菜で質素なものであつた。肥満児らしき子どもが一人もいない教室を後にしなが

ら、「飽食日本! 肥満児!」の

〈少年宮花壇を囲んで〉

陶西平主席のスピーチをうけての通訳「……我々の居る教育局は、その昔日本軍憲兵隊の建物であります」

陶西平主席のスピーチをうけての通訳「……我々の居る教育

局は、その昔日本軍憲兵隊の建物であります」

陶西平主席のスピーチをうけての通訳「

一九九〇年度総会開く

一九九〇年度広島ユネスコ協

会総会は、六月十六日開かれ、

前年度の総括、本年度事業計画

を討議、決定しました。また、

役員改選では、五年間にわたり、

協会を発展させてきた河村盛

明会長の退任に伴い、松原博臣

氏を新会長に選出、また他の役

員の一部改編を含めて、承認さ

れました。

〔新役員紹介(※は新任)〕

名譽会長

荒木武

顧問

岡田泰二、沖原豊、

会長

松原博臣

副会長

加藤朗一、信井正行、

理事

〔教育活動〕常任II太鼓矢賀、

本家正文、理事II上本忠則、

溝上泰、※木原亮

〔組織活動〕常任II伊東亮三、

山崎克洋、理事II瀬田洋、水

野文隆

〔文化活動〕常任II新川貞之、

末野忍、理事II長迫凱朗、

※藤森巖

〔国際交流活動〕常任II永田龍

男、北川健次、理事II熊崎賢

内海先生の真摯なユネスコ活

動は、ヒロシマ国際アマチュア

会を成功させ、ここ三年間に日

中ユネスコ交流の旗手として北

京市ユネスコクラブと姉妹縁組

を締結し友好を深めていること

は特筆大書すべきで、国際交流

映画祭の審査にも如実に現われ、

田憲至。

理事II山本隆信、※

上橋慶韶

〔広報活動〕常任II龜井章、内

田憲至。

理事II山本隆信、※

古田碩永

理事II竹沢臣子、

監事

吉岡尊治、※成田鉄雄

〔平和活動〕常任II高橋昭博、

古田碩永

理事II竹沢臣子、

監事

吉岡尊治、※成田鉄雄

〔上田義文

事務局長

(兼務)信井正行

事務局次長

藤井孝行、国田繁

映画祭との「映画祭姉妹縁組」

縁となり、団らすも今年バーリ

ントン市から、彼地で開催して

いる地球平和映画祭とヒロシマ

映画祭との「映画祭姉妹縁組」

を提唱してこられたのに、先生

との深い因縁を感じております。

当時の会員は四十名弱、その

中で青年部の松岡盛人さんや深

瀬文恵さんの発言が鮮やかに耳

に残っています。青年部はそ

後も歴代青年部長の目的意識を

もつた活動で推進されてきました。

これからも一層活発化して

ゆかなければと思っております

が、同時に、二十九名にまで増

えた婦人部の活躍に期待したい

と思います。このことは既に、

前回の理事会で、オブザーバー

として複数の婦人会員にも次回

理事会よりご参加頂き、婦人部

の活性化を図ることとなりまし

た。

本協会の現況を直視しますと、

員諸氏の絶大なご協力があつた

河村盛明前会長の温かいお人柄と、これを支える事務局長はじめ理事諸氏のたゆまざる努力で、会員も一四三名に達し、先に民間ユネスコ活動世界大会広島大

会を成功させ、ここ三年間に日本ユネスコ交流の旗手として北京ユネスコクラブと姉妹縁組

を締結し友好を深めていること

は特筆大書すべきで、国際交流

映画祭の審査にも如実に現われ、

田憲至。

理事II山本隆信、※

上橋慶韶

〔広報活動〕常任II龜井章、内

田憲至。

理事II山本隆信、※

古田碩永

理事II竹沢臣子、

監事

吉岡尊治、※成田鉄雄

〔上田義文

事務局長

(兼務)信井正行

事務局次長

藤井孝行、国田繁

映画祭との「映画祭姉妹縁組」

縁となり、団らすも今年バーリ

ントン市から、彼地で開催して

いる地球平和映画祭とヒロシマ

映画祭との「映画祭姉妹縁組」

を提唱してこられたのに、先生

との深い因縁を感じております。

当時の会員は四十名弱、その

中で青年部の松岡盛人さんや深

瀬文恵さんの発言が鮮やかに耳

に残っています。青年部はそ

後も歴代青年部長の目的意識を

もつた活動で推進されてきました。

これからも一層活発化して

ゆかなければと思っております

が、同時に、二十九名にまで増

えた婦人部の活躍に期待したい

と思います。このことは既に、

前回の理事会で、オブザーバー

として複数の婦人会員にも次回

理事会よりご参加頂き、婦人部

の活性化を図ることとなりまし

た。

本協会の現況を直視しますと、

員諸氏の絶大なご協力があつた

ればこそと感謝しています。

民間ユネスコ世界大会広島会

場の開催にあたり、故内海巖先

生のご要望もだし難く、ついお

引受けすることになったのが始

まりで、幾度となく組織瓦解の

懸念に立ち、事務局も転々と

移動せざるを得なかつた事情に

もかかわらず、何とかしのいで

きました。その都度「ユネスコ

をつぶしてはならない」との一

点にしほって協会内外の理解と

協力を得ました。というには、

それだけ世界平和の規範となる

べきユネスコ憲章の精神が今

世にあつてなお脈々と息づいて

いる証拠だと思います。

最近の東西ヨーロッパの融合

を初めとする国際情勢の変化を

見ても、ユネスコ精神に基づく

国際交流の力がいかに大きなも

のかを、私たちはもつともつと

自信を持つて良いと思います。

幸い、北京ユネスコ協会との姉

妹提携を手がかりに、中国との

交流が益々深まり、実りの多

ものになりつつあります。それ

らいろいろな種や芽を見出しそ

がします。新会長のもとに、こ

れらいくつかの布石をより強力

に育てていただくよう、そして

協会が一層の発展をされるよう

心からお祈りいたします。



魅力ある協会を
会長 松原博臣

顧問 河村盛明



会長辞任にあたつて

顧問 河村盛明



広島ユネスコ協会の定例文化行事
「国際交流サロン」がスタートして丸三年、その回数も24回を迎えるまでに定着、発展してきました。

サロンは原則として月一回、第三土曜日午後二時(二時間)会場は広島市本通りアンデルセン(会費は茶菓代を含めて千円)となっています。

本年四月以降の国際交流サロンの経過は次のとおりです。

なお、当協会では、国際交流サロンのほか、文化講演会を年一回開催しており、本年は「現下の国際情勢をいかに見るか」(国立京都国際会館橘正忠館長)会場は広島市国際会議場Ⅱを開催しました。

トして丸三年、その回数も24回を迎えるまでに定着、発展してきました。

広島ユネスコ協会の定例文化行事「国際交流サロン」がスタートして丸三年、その回数も24回を迎えるまでに定着、発展してきました。

国際交流サロン

拡がる眼

ペアセロベ
賑やかに

十月二十八日秋晴れの中区中央公園で恒例のペアセロベ(P.A.C.E. - L.O.V.E.)が開催されました。

広島ユネスコ協会ではわら草履づくり、折紙、廻づくりをモードに店を開きました。

外国からのお客様が入れかわり立ち寄られて、賑やかな風景が展開されました。

EACE - L.O.V.E.)が開催されました。

広島ユネスコ協会ではわら草履づくり、折紙、廻づくりをモードに店を開きました。

アにおける「工業化」(富士ゼロックス事業部長岩部潤三氏)

▼第21回・6月16日(広島勝邦氏)

▼第22回・7月21日(転換点に立つタイの政治と経済)(広島大学総合科学部講師山尾政博氏)

▼第23回・10月20日(「IPPNW(核戦争防止国際医師の会)と新しい国際情勢」(木村クリニック院長木村進匡氏)

▼第24回・12月1日(「日中交流の集い」(詳細は別項))

▼第25回・1年1月26日(「湾岸情勢を巡って」(広島大学総合科学部専任講師吉村慎太郎氏))



ユネスコ百冊の本 たけのこ文庫へ



国際児童年の一九七九年以來、ユネスコ協会連盟は、毎年「百冊の本」を国内の子供文庫に贈り続けていますが、今年は広島地区で「たけのこ文庫」(安佐南区西原、代表藤村美千枝さん)が選ばれ、先ごろ、広島ユネス

協会を通じて「百冊」の図書が同文庫に贈られました。

贈呈式には児童、母親約三十人が出席。広島ユネスコ協会信井正行副会長が「ユネスコ・ライブラリー100」の趣旨と図書の活用を促す挨拶を述べました。

贈られた本の内容は、「エーミールと探偵たち」などの物語や自然観察記など主に小学生を対象にしたもので、本の背には「ユネスコ・ライブラリー100」のシールが貼られています。

「たけのこ文庫」は、地元有志から提供された民家へ親子のために作られた集会所の一角に設けられ、土曜日は子供の「小さな図書館」として賑わっています。

コ協会を通じて「百冊」の図書が同文庫に贈られました。

贈呈式には児童、母親約三十人が出席。広島ユネスコ協会信井正行副会長が「ユネスコ・ライブラリー100」の趣旨と図書の活用を促す挨拶を述べました。

贈られた本の内容は、「エーミールと探偵たち」などの物語や自然観察記など主に小学生を対象にしたもので、本の背には「ユネスコ・ライブラリー100」のシールが貼られています。

帝釈小へ スライド贈る



な、お、「百冊の本」の贈呈は全国からの応募により、二五〇カ所の「文庫」、保育所を選定して、毎年贈られています。

先の訪中団が北京市ユネスコクラブに資料として贈ったスライド「山鳥、海を渡る」(27分)の日本語版を当協会代表が、十一月二十六日、比婆郡帝釈小学校を訪ね、プレゼントしました。

当日は保護者参観日で、三十人の全校児童、保護者、教員が作品を観賞。同校と中国盤錦小の愛鳥活動を通しての友好活動の記録に改めて自然保護の大切さと国際交流の意味について心を動かしている様子でした。